

2015年度の園だよりも 最終号となりました。毎月、ささやかで つたない文章にもかかわらず、この1年 お読み頂きましたこと、心より 感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、先月の終わり頃のことでした。2Fに用事があり、階段を上っていくと いつも元気な声が聞こえる 年長の いるか組の部屋が いやに静かです。そーっとガラス窓から中をのぞいてみますと、子ども達が 皆 ひざを抱えて うなだれていました。「こんにちは！」と入って行くと「あっ・・・えんちょうせんせい・・・」と すぐるような まなざしを 一斉に向けてきました。「どうしたの？ 元気ないね～ あっちゃん先生と のぞみ先生は？」私の声に また一斉に 首を振り ため息をつき うつぶしました。㊤「いったい 何があったの？」㊦「せんせいに おこられちゃったの」㊧「なぜ？」㊨「ぼくたちが わるかったから」「またおんなじことしちゃったから」「だから ぼくたちだけではなしあって どうするか みんなで かんがえてるの」「それと。なかまなのに OOちゃんのこと ちゅういしてあげられなかった」㊩「また同じことって 何をしたの？」・・・聞いていくうちに だんだん 皆の顔が 上向きになり、それまでの経緯を ロタに 話し始めたのですが、どうやら 皆は ついこの前、まもなく就学を控えている 年長組としての 自覚や責任の無さに、担任の 先生達から 注意を受け 全員で考え合った結果「ちゃんと考える」と返事をしたばかりだったそうです。なのに 再び同じことを言われてしまった上、その話の最中に つい聞いていなかった友達に、気づいていたにもかかわらず、無関心な態度をとってしまったことについて 自分たちの問題として、自分たちで見つめ合うべきだと 先生達から諭され、確かに自覚がなかったと 反省し合い いっしょうけんめい 考えていたところだったようです。（担任達は 隣の部屋で 息をひそめて 心配そうに 子ども達の様子を うかがっていました）そこで 私は 今 皆が どんな気持ちなのか、何を考えているのかを ゆっくり聞いてみました。すると、それぞれが“わるかった”“これからは ちゃんと かんがえる”と 真剣な思いを 伝えてきたので「それなら 黙ってないで 心の中のことを 言葉にして 伝えよう」「悪いと思っているなら 謝らなくちゃ。今の 皆の心の中を 先生達に お話することだと思うよ」その言葉に 大きくうなずいて 立ち上がり、顔を見合わせ 急いで 部屋を出て行き、先生達の姿を見つけると 安心したような表情で 皆と一緒に 話していたので、その後ろ姿に ホッとしました。

・・・ところが その直後 また 同様のことを招き 落胆して駆け込んできた 担任の話を聞きながら 子ども達の様子を思い、ふと 気づいたことがありました。なぜ、度々 繰り返してしまうのだろう “やっちゃった” → “あやまる” → “これからはしない” という “上辺” だけにとどまってしまう その “してしまったこと” 自体について “なぜ 悪いことなのか” にまで 思いが及んでいないため 謝る “方法” や “言葉” は知っていても、そこで感じるべき『相手への想い』が 欠けていたのです。私は 一段落ついていた子ども達のもとへ 行き、真剣な顔で 今日、皆がしてしまったことについて ゆっくりと 振り返りました。そして、なぜ先生達が 怒ったのか？ 本当は 怒りではなく 悲しんだのだということを 伝えました。子ども達は 終始 真剣なまなざしで 私の顔を見つめながら、耳を 傾けていました。「皆が 先生の話聞いて “はい。わかりました” “これからは よく考える” と 言ったことは『約束』だよ。約束ってどういうものかな？」㊪「たいせつ！」「まもるもの！」

「そうだよ、それなのに 皆は あっちゃん先生との約束を破っちゃったんだよ。約束を破るって いうことは 相手の心を 裏切ったということになるの。裏切るというのは “切る” って書くんだよ もし 皆の手を切ったらどう？」㊫「痛い！」「血が出ちゃう」㊬「そうだね。裏切るということとは 相手の心を切っちゃうこと。切れた心は 見えないけど 血が流れてるということなの」子ども達の 顔が 一斉に曇りました。㊭「人の心は 見えないからこそ いっぱい 考えるの。神様は 人間にだけ 特別に そういう力を 与えて下さったんだよ。だから 人は心を使うの。使って 一生懸命 想うの。」㊮「うん」㊯「あっちゃん先生は 約束した皆を 信じてたのに 心を切られたから 痛かったんだよ。」㊰「約束を守ればよかった」・・・ どれほど重たいことだったのかを感じ、自分達の心を 静かに 振り返った 子ども達でした。その想いをどうか大切にしてほしいと願いながら、約束を守ることの 大切さと共に 破ってしまう心の弱さが 人には誰にでもあること、だから 過ちを絶対に犯さないと 自分で頑張るのでなく、強い意志が持てるように 自分の心を守っててくださいと いつも 神様に 祈ればよい。神様は応えてくださるよと伝えました。その言葉に 安らいだ笑顔がこぼれていました。

まもなく つのぶえを巣立っていく12名の愛すべき子ども達 ひとりひとりの心に、どんな時も イエスさまが そばにいてくださることを勇気にして ここで育まれた 人としての心、愛することを 大切に 笑顔で 大空へ羽ばたいて行けますよう 神様の祝福を 心からお祈りいたします。（石田 記）
「いつまでも残るものは 信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。（1コリント13:13）」